KENWOOD

DM-1NET

Net MDドライブ

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。
使用者の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

B60-5326-00 00 (MA) (J) KW 0207

Net MDで広がる新しい音楽生活へようこそ

Net MDはパソコンに保存されている音楽データをMDに転送する規格です。
付属アプリケーションソフト「Mulia」を使ってMDとパソコンをつなぐと、新しい音楽生活が始まります。

■ パソコンをジュークボックスに

お気に入りのCDやインターネットからダウンロードした曲を、パソコンの中にどんどん貯め込んで、パソコンをジュークボックスにしてしまいましょう。

「Mulia」には、CDの高速録音機能が搭載されていますので、ハードディスクに曲を保存してパソコンをジュークボックスにすることが簡単にできます。（ハードディスクの空き容量が10GBである場合は、約2000曲の音楽データを保存できます。）

また、「Mulia」は音楽配信にも対応していますので、CDを買いに行かなくても、欲しい曲はインターネットで購入し、パソコンに貯め込むことができます。

■ 聴きたい曲や録音したい曲を探すときもマウスをクリックするだけ

パソコンに貯め込んだ音楽データは、アーティスト名やアルバム名で管理しておきましょう。そうすれば、聴きたい曲や録音したい曲を簡単に探し出すことができます。

「Mulia」には、CDを録音するときに自動的にアーティスト名やアルバム名、曲のタイトルをインターネットからダウンロードする機能が搭載されています。パソコンに保存した音楽データをアーティスト名やアルバム名で、簡単に管理できます。どんなアーティストのどんなアルバムにどのような曲が入っているかは、マウスをクリックしていくだけで探し出すことができます。

■ MDの作成も簡単に

「Mulia」を使って、お気に入りの曲をMDに転送してみましょう。

お気に入りの音楽データをパソコンに貯め込んでおけば、いつでもお気に入りMDを作成することができます。パソコンに貯め込んだ音楽データをMDに転送すれば、あっという間にお気に入りMDのできあがりです。お気に入りMDは、マウスをクリックするだけで作成することができます。

■ MDの編集もパソコンで

その日の気分でお気に入りのMDを作りましょう。

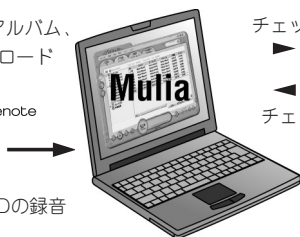
最大32倍速の高速転送により、曲の転送や入れ替えが短時間で行えます。

忙しい時間でも、お気に入りMDに新しい曲を加えたり、新しいお気に入りMDを作成することが可能です。「Mulia」を使えばタイトル編集や曲順の入れ替えも簡単です。

■ 普通のMD再生機器でも再生可能

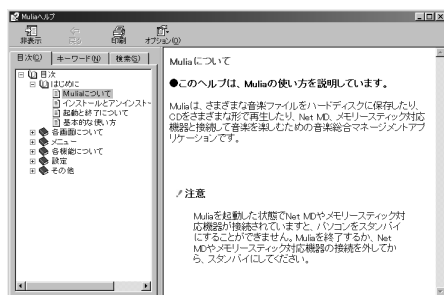
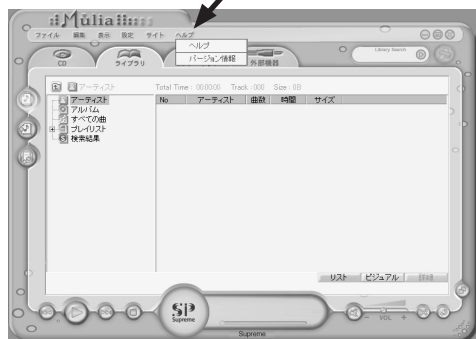
お気に入りのMDを作成・編集して、好きな場所で好きな音楽を楽しみましょう。

Net MDは従来の録音用MDを使用しますので、お持ちのMDステレオやポータブルMD、MD搭載カーステレオでも再生できます。

Net MDで広がる新しい音楽生活をお楽しみください。

チェックイン/チェックアウト:用語の説明 28ページ

目次

⚠ **このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。**

この説明書の操作説明に関しては、DM-1NETの本体でできる操作について説明をしています。アプリケーションソフト「Mulia」を使用した操作については、「Mulia」のオンラインヘルプを参照してください。オンラインヘルプは「Mulia」をインストールしたあと、「Mulia」を起動して、メニューの[ヘルプ]をクリックし、ヘルプを選ぶとヘルプ画面を表示させることができます。

オンラインヘルプ画面

安全上のご注意

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。）

⚠ 警告

AC アダプターは交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器の AC アダプターは，交流100ボルト専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

指定のAC アダプターを使う

充電するときや電源を供給するときは，機器に付属，または指定のAC アダプターをお使いください。
指定以外の AC アダプターを使用すると電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

放熱に注意

本体およびAC アダプターは次のような使い方をしないでください。

- あおむけや逆さま、指定以外の横倒しで使用する。
- 風通しの悪い、狭い所に押し込む。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り，AC アダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると，火災・感電の原因となります。煙や，異臭，異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

AC アダプターのプラグは清潔に

AC アダプターの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は，AC アダプターを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると，火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

ケースを絶対に開けないでください

ACアダプターや機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。

点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

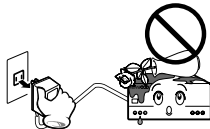
機器の内部に水や異物を入れない

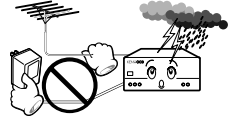
機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

落下した機器は使わない

ACアダプターや機器を落としたり，カバーやケースがこわれた場合は，電源スイッチを切り，ACアダプターをコンセントから抜いて，点検，修理をご依頼ください。
そのまま使用すると，火災・感電の原因となります。

雷が鳴り始めたら

アンテナ線やACアダプターには触れないでください。
感電の原因となります。

電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

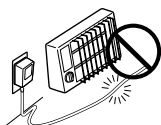
乾電池は充電しない

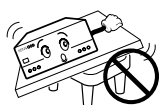
乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

充電禁止

⚠ 注意

ACアダプターを熱器具に近付けない

ACアダプターを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。
被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所には置かない

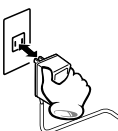
窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

ACアダプターの抜き差しは

ぬれた手でACアダプターを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

ACアダプターは，根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ACアダプターを抜くときは，コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき，火災，感電の原因となることがあります。
必ずACアダプター本体を持って抜いてください。

ACアダプターはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

差し込みが不完全ですと発熱したり埃が付着して火災の原因となることがあります。また，ACアダプターの刃に触れると感電することがあります。

⚠ 注意

長期間使用しないときは

旅行などで長期間, ご使用にならないときは, 安全のため必ずAC アダプターをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り（パソコンは除く）、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

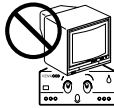
アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

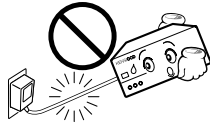
レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意

移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ずAC アダプターをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

音量に気をつけて

はじめに音量（ボリューム）を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"-"の向き）に注意し、表示通りに入れてください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

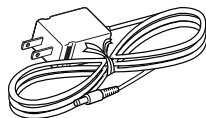
お手入れの際は

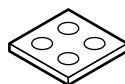
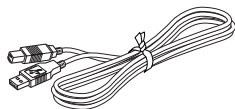
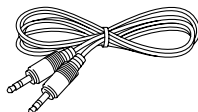
お手入れの際は安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、またはケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

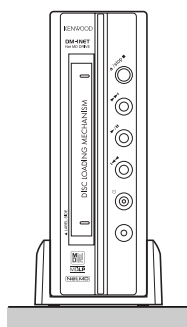
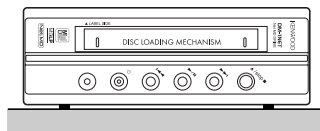
設置する

付属品を確かめる

AC アダプター
（1個）

縦置き用スタンド
（2個）

横置き用クッション
（4個/1シート）

USBケーブル
（1本）

オーディオケーブル
（1本）

アプリケーションソフト
「Mulia」CD-ROM（1枚）

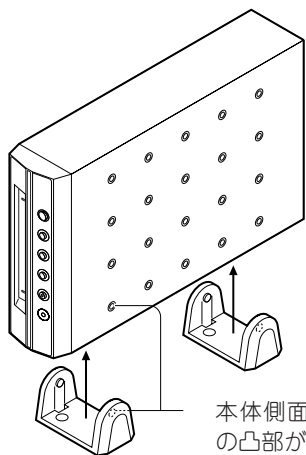
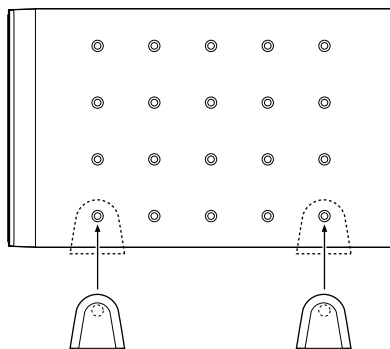
設置をする前に

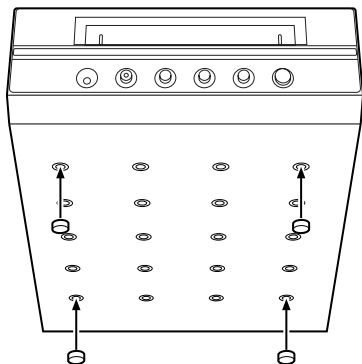
本機は、縦置きまたは横置きでお使いいただけます。
上下の方向は、下の図のように設置してください。上下を逆にして設置しないでください。

縦置き

横置き

POINT

- 設置方法をかえる場合は、AC アダプターをコンセントから抜いてから行ってください。

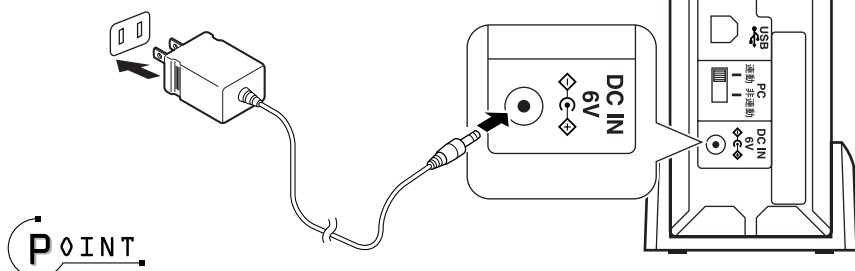
縦置きで使用する

付属のスタンドを取り付けて設置します。

横置きで使用する

付属のクッションを台紙からはがし、下の図のように4つのコーナーの凹部に合わせ貼り付けて設置します。

接続する

電源(AC アダプター)を接続する

付属のAC アダプターを接続します。

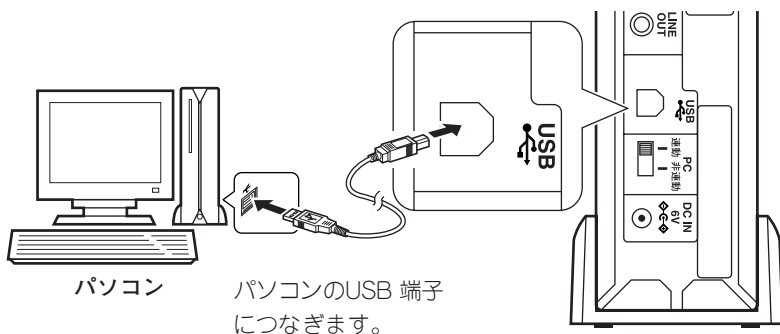
付属のAC アダプターをAC100V、50/60Hz
の電源コンセントにつなぎます。

POINT

- AC アダプターは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、正常に動作しなくなることがあります。
- アンプ内蔵スピーカーなどパソコン以外の機器の接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずACアダプターを電源コンセントから抜いてください。
- AC アダプターを抜くときは、必ず本機の電源を切り、壁側のプラグから先に抜いてください。

この製品には、付属の AC アダプター「W09-1297」(JEITA 規格・極性統一形プラグ付き)をご使用ください。

パソコンと接続する

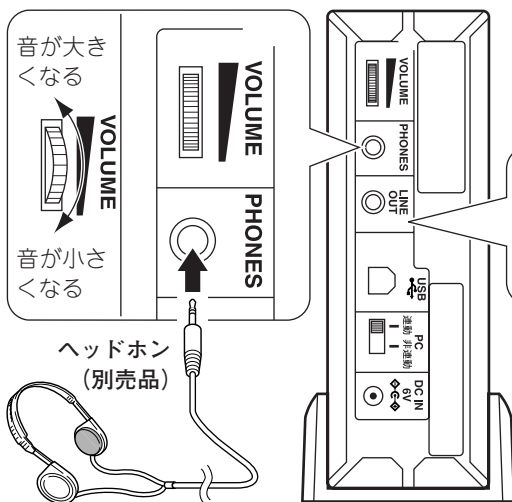
初めてパソコンに接続するときは、接続する前にご使用のパソコンの環境を確認し、アプリケーションソフト「Mulia」をインストールしてください(14ページ)。
付属のUSB ケーブルを使用してパソコンと接続します。

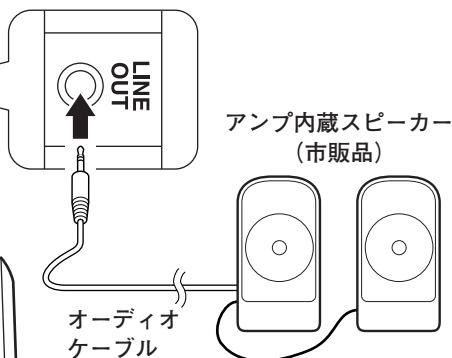
- パソコンの電源が入っているときにもつなぐことができます。

他の機器を接続する

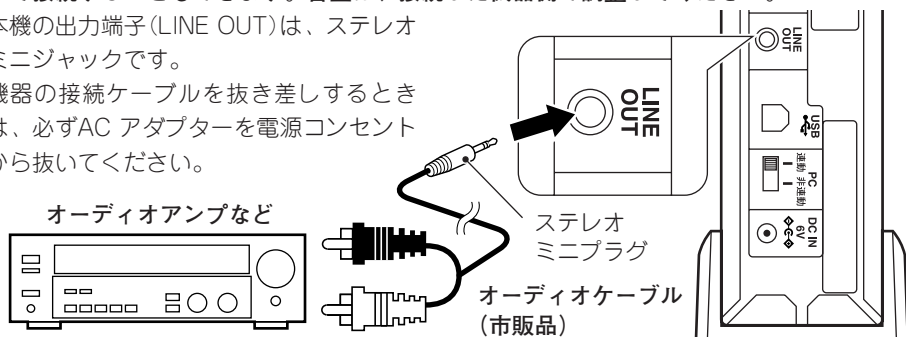
ヘッドホンやアンプ内蔵のスピーカーを接続して、MDを聴くことができます。

- パソコンの音声は、接続した機器では聴くことはできません。
- パソコンの電源がオフのときやパソコンと接続していないときでも、ヘッドホンやアンプ内蔵のスピーカーを接続すればMDを聴くことができます。
- 機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

別売のステレオミニプラグ付きのヘッドホンをつなぎます。

ヘッドホンの音量は、VOLUME（ボリューム）ツマミで調整します。

市販のアンプ内蔵のスピーカーをつなぎます。音量は、スピーカー側で調整してください。

- 本機の出力端子（LINE OUT（ライン アウト））は、ステレオミニジャックです。
- 本機に付属されているオーディオケーブル、アンプ内蔵のスピーカーに付属されているケーブルまたは市販のオーディオケーブルで接続します。
- 機器の接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずACアダプターを電源コンセントから抜いてください。

アンプ内蔵のスピーカーの他に、オーディオアンプやレシーバーと市販のオーディオケーブルを使って接続することもできます。音量は、接続した機器側で調整してください。

- 本機の出力端子（LINE OUT）は、ステレオミニジャックです。
- 機器の接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずAC アダプターを電源コンセントから抜いてください。

MuliaとNet MD

付属アプリケーションソフト「Mulia」は、デジタル音楽コンテンツの利用と音楽著作権管理をするソフトウェアです。
パソコンのCDドライブを使って音楽CDを再生したり、音楽データをパソコンのハードディスクに保存や管理をすることができます。また、保存した音楽データの再生、編集、曲のタイトルなどを入力のほかに外部機器(本機などの「Mulia」に対応した機器)に転送することもできます。
音楽データは、圧縮されたデータの音質を飛躍的に向上させる「Supreme2」(用語の説明 28ページ)を採用しているため、高音質で再生ができます。
音楽データを暗号化して記録する著作権保護技術「OpenMG」(用語の説明 28ページ)の採用により、著作権者の意志に沿った音楽データの保存、再生ができます。
DM-1NETと組み合わせると、Net MD機能が働き「Mulia」のライブラリで管理されている音楽データをDM-1NETに高速に転送(チェックアウト)したり、MDに転送した音楽データをライブラリに戻す(チェックイン)ことができます。また、パソコンでMDの再生、編集、曲のタイトルなどを入力することができます。
「Mulia」および「Mulia」を利用したNet MD機能の使いかたは、オンラインヘルプを参照してください。

POINT

- 音楽データをMDにチェックアウトするには、「Mulia」を使用して音楽データをパソコンのハードディスク(「Mulia」のライブラリ)に取り込む必要があります。
- 市販のMDソフトや他の機器で録音したMDなど、チェックアウトした音楽データ以外はMDからパソコンに取り込むことはできません。

Mulia をインストールする前に

「Mulia」をインストールをする前に、ご使用のパソコンの環境を確認してください。
必要条件を満たすパソコンでも、パソコン固有の仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機が正常に動作しない場合があります。

(1)「Mulia」を使用するには、次の条件のハードウェアとソフトウェアが必要です。

	必要条件	備考
オペレーティングシステム	Windows 98 Second Edition/ Windows Millennium Edition/ Windows 2000 Professional/ Windows XP Home Edition/ Windows XP Professional	Windows 95 / Windows 98 / Windows NT / Windows 2000(Serverなど)では動作保証しません。
本体	上記オペレーティングシステムのいずれかを正式にサポートしているIBM PC/AT互換機(日本語版のみ)	Macintoshでは動作しません。
CPU	MMX Pentium 233MHz以上 Pentium II 400MHz以上推奨	CD録音やファイルをインポートしているとき、またはチェックイン/チェックアウト(用語の説明 28ページ)をしているときは、パソコンの処理能力によって再生音が途切れることがあります。
メモリ	64MB以上	
ハードディスク空き容量	150MB以上	Windowsのバージョンによって異なります。 音楽データを記録・再生するための空き容量が別途必要です。

	必要条件	備考
ディスプレイ	High Color(16bit)以上 800×600ドット以上	256色以下では、正常に動作しない場合があります。
サウンドボード	Windows 98 Second Edition/ Windows Millennium Edition/ Windows 2000 Professional/ Windows XP Home Edition/ Windows XP Professional 対応のサウンドボード	
その他	USBポート (USB規格Ver.1.1に準拠)	USBハブで拡張されたUSBポートは動作保証しません。
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブによっては、CDからの録音が正しくできない場合があります。 USBで接続したCD-ROMドライブからの録音は動作保証しません。
	Internet Explorer 5.0以降、 Windows Media Player 7.0以降	Windows Media Player 7.0以前のものをお使いの場合は、アップグレードを行ってください。

(2) Windows®日本語版が、正しく起動できることを確認してください。

注意 **Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP Professionalをお使いの場合**

Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP Professionalで「Mulia」を動作させる場合は、以下の制限があります。

- Windowsドメインユーザーアカウントから、ログオンして使用することはできません。
- インストールは、管理者権限(Administrator)のユーザー名でログオンして行ってください。
  管理者権限(Administrator)のあるユーザーでも、全角のユーザー名でログオンすると、インストールが失敗することがあります。その場合は、いったんログオフして管理者権限(Administrator)のユーザー名でログオンし、「Mulia」をアンインストール(22ページ)してから、再度、管理者権限(Administrator)のユーザー名でログオンして、インストールを実行してください。
- 「Mulia」を使用するときは、管理者権限(Administrator)および標準ユーザー権限(Power User)のユーザー名でログオンして実行してください。
- Windows 98 Second Edition、またはWindows Millennium Editionとデュアルブート環境にしている場合に、両方のOSに「Mulia」をインストールすると、データが正しく記録や再生できません。
- NTFSフォーマットは標準インストール(お買い上げ時)でのみお使いになれます。

アプリケーションソフト「Mulia」

- このソフトウェアの一部もしくは全部を、複製もしくは修正、追加等の改変をすることは行ってはならないものとします。
- このソフトウェアを使用したことによって生じた使用者もしくは第三者の損害に関しては、当社は一切その責任を負いかねます。
- このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

Muliaのインストール

お手持ちのパソコンのハードディスクに「Mulia」をインストールします。
あらかじめWindowsを起動しておきます。使用中のソフトウェアがある場合は、全て終了してください。
なお、「Mulia」をインストールするときは、本機とパソコンをUSBケーブルで接続していない状態で行ってください。

POINT

- Windowsの操作については、お使いのパソコンの取扱説明書、またはオペレーティングシステムの取扱説明書を参照してください。

1 添付の「Muliaインストール用CD-ROM」をCD-ROMドライブに入れる

インストーラーが自動的に起動して、[Muliaインストール]画面が表示されます。
[Muliaインストール]画面が表示されないときは、デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、「Muliaインストール用CD-ROM」が挿入されているCD-ROMドライブをダブルクリックしてください。それでもインストーラーが起動しないときは、CD-ROM内の[Setup]アイコンをダブルクリックしてください。

「古いバージョンのOpenMG Jukeboxまたは SonicStageが検出されました。」と画面に表示された場合は、[はい]ボタンをクリックし、18ページの「OpenMGのアップグレード」を参照して「OpenMG Jukebox」、または「SonicStage」のアップグレードを行ってください。

2 [Muliaインストール]画面の[開始]ボタンをクリックする

ウィザードが起動します。

3 ウィザード画面に表示される指示に従って操作する

ウィザード画面は以下のように切り換わります。

- [セットアップステータス]画面
- [Mulia用のInstallShield ウィザードへようこそ]画面
- [使用許諾契約]画面
- [インストール先の選択]画面
- [セットアップステータス]画面
- [InstallShield ウィザードの完了]画面
- [Net MD Driver用のInstallShield ウィザードへようこそ]画面
- [セットアップステータス]画面
- [InstallShield ウィザードの完了]画面

「Mulia」のインストール先は「Program Files」に設定されます。変更する場合はウィザード画面[インストール先の選択]にて行います。同じ画面にある[参照]ボタンをクリックし、画面に表示される指示に従って操作してください。

4 「インストールが完了しました。PCを再起動します。」と画面に表示されたら、[OK]ボタンをクリックし、再起動する

5 **Windowsが起動したら、本機の電源を入れ、USBケーブルを使って、本機とパソコンを接続する（12ページ）**

自動的に本機が検出され、ドライバが組み込まれます。

本機の検出、ドライバの組み込みが終了すれば、インストールが完了し「Mulia」を使用することができます。

本機の検出、ドライバの組み込み中は、USBケーブルを抜き差ししないでください。

数秒間待っても本機が検出されないときは、USBケーブルをもう一度接続し直します。それでも検出されないときは、Windowsを再起動します。

インストールが終了したのに、本機が検出されないまたは「Mulia」上で外部機器としてNet MDが認識されない、操作ができないときは、27ページの「DM-1NETがパソコンに認識されているか確認するには」で、本機がパソコンに認識されているか確認してください。

POINT

- Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP Professionalをお使いの場合は、管理者権限（Administrator）のユーザー名でログオンして実行してください。
- 「Mulia」をインストールすると、以下のモジュールが追加されます。

  Microsoft® Data Access Components 2.5

  Microsoft® DirectX® Media Runtime

  「Mulia」をアンインストールしても、上記のモジュールは削除されません。

Muliaを使うときの注意

「Mulia」を使う前に必ずお読みください。

■ USBケーブルの接続について

「Mulia」を使用中は、USBケーブルの抜き差しをしないでください。

■ 本機の電源について

「Mulia」を使用中は、電源を切らないでください。

■ パソコンの省電力モード設定について

本機をパソコンに接続して「Mulia」で使用しているとき、MDが入っているとパソコンの省電力モードには移りません。

■ CDを録音しているとき

「Mulia」でCD録音しているときは、CDを取り出さないでください。

■ 他のアプリケーションを使うとき

他の音楽アプリケーションと「Mulia」を同時に使用したり、他のCD再生アプリケーションを使用中に「Mulia」でCD録音を行うと、正しく動作しないことがあります。

「Mulia」で音楽を再生中に、他のアプリケーションを使用すると、再生音が途切れることがあります。

■ 格納ディレクトリについて

「Mulia」をインストールしたフォルダや音楽データを格納しているフォルダは、エクスプローラなどで操作しないでください。また、これらのフォルダを含むハードディスクのドライブ名は変更しないでください。

「Mulia」上で外部機器としてNet MDが認識されない、操作ができないときは、27ページの「DM-1NETがパソコンに認識されているか確認するには」で、本機がパソコンに認識されているか確認してください。

次ページに続く➔

本機でチェックアウトやタイトル入力をしたMDを、他のMD機器で聴くときは、次の点にご注意ください。

■本機でチェックアウトした曲を、他のMDLP*非対応のMD機器で聴くには

以下の方法で、録音モードをSPステレオに設定してからチェックアウトします。
(1)「Mulia」のメインメニュー[設定]→[オプション]→[チェックアウト]を開く
(2) 録音モードをSPステレオを選ぶ
(3)「適用」ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックする

長時間録音モードLP2/LP4に設定していると、チェックアウトした曲はMDLP非対応のMD機器では聴くことはできません。

* MDLP:用語の説明 29ページ

■全角のタイトル入力について

全角タイトルは、漢字タイトル表示対応のMD機器など全角表示に対応したMD機器でしかタイトルを表示することができません。全角表示に対応していないMD機器でタイトル表示したいときは、半角タイトルにもタイトルを入力してください。

使用中に問題があるときは、次のことを確認してみてください。

■音が途切れるとき

- 音声出力中、CPU に負担のかかる作業をしているときは、音が途切れることがあります。CPU に負担のかかる作業は控えてください。
- 音声出力中に他のUSB ケーブルの抜き差しをすると、音が途切れることがあります。音声の再生中に、他の機器のUSBケーブルの抜き差しはしないでください。

■雑音が多いとき

本機が強い電磁波を発生するもの(テレビなど)の近くに置かれていると、雑音が多くなることがあります。強い電磁波を発生するものから十分に離して設置してください。

OpenMGのアップグレード

古いバージョンの「OpenMG Jukebox」または「SonicStage」がインストールされている場合は、OpenMGのアップグレードを行います。

(1)「OpenMG Jukebox Ver.1.X/2.0/2.1」でチェックアウトした曲をチェックインする

(2) バックアップツールで、曲データのバックアップを行う

バックアップの方法は、「OpenMG Jukebox」のオンラインヘルプを参照してください。

(3) 添付の「Muliaインストール用CD-ROM」をCD-ROMドライブに入れる

インストーラーが自動的に起動して、[Muliaインストール]画面が表示されます。

[Muliaインストール]画面が表示されないときは、デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、「Muliaインストール用CD-ROM」が挿入されているCD-ROMドライブをダブルクリックしてください。

それでもインストーラーが起動しないときは、CD-ROM内の[Setup]アイコンをダブルクリックしてください。

(4)[OpenMG Jukebox 2.2へのアップグレード]ボタンをクリックする

(5)[はい]ボタンをクリックする

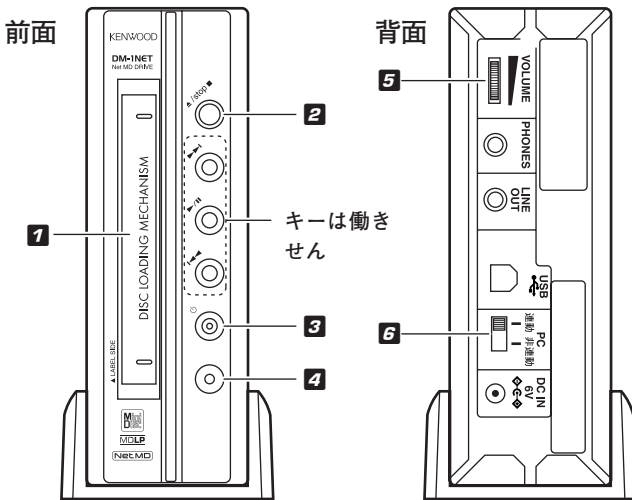
(6) 以降、画面に表示される指示に従って操作する

「ロックされたファイルの検出」と画面に表示された場合は、[無視]ボタンをクリックしてください。

(7) アップグレードが終了したら、16ページの「Muliaのインストール」を実行する

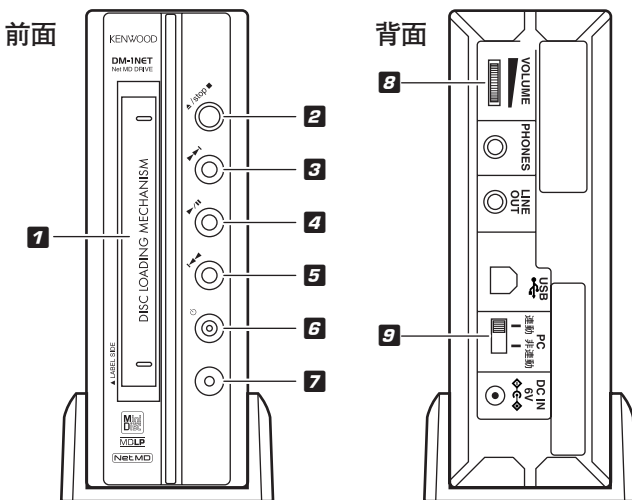
各部の名前

本機はパソコンと接続しパソコンの電源を入れると、パソコン管理のもとで動作する機器となります。この状態をパソコンとリンクしている状態といいます。パソコンとリンクしているときは、本体の一部のキーは働きません。本体のキーで操作できない機能は「Mulia」を使用して操作します。
パソコンの電源がオフまたはパソコンと接続していないときは、パソコンとリンクしていない状態です。ヘッドホンやアンプ内蔵のスピーカーと接続すれば、本機単独でもMDを聴くことができます。

■ パソコンとリンクしているとき

1. MD挿入口
2. ▲/stop(ストップ)■(MD取り出し／再生停止)(20) *1
3. ⏻(電源)(20)
4. インジケーター(21)
5. VOLUME(ボリューム)(13)
6. PC 連動/非連動(20)
   (左の図のスイッチは、"連動"に設定している状態)

カッコ内の数字は参照ページです。

***1: 再生中または停止のとき、キーを押すとMDを取り出すことができます。このキーの操作では、再生の停止のみを行うことはできません。**

■ パソコンとリンクしていないとき(本機単独でMDを聴くとき)

1. MD挿入口
2. ▲/stop(ストップ)■(MD取り出し／再生停止)(20,21)
3. ▶▶I(スキップ)(21)
4. ▶/II(再生／一時停止)(21)
5. I◀◀(スキップ)(21)
6. ⏻(電源)(20)
7. インジケーター(21)
8. VOLUME(ボリューム)(13)
9. PC 連動/非連動(20) *2

カッコ内の数字は参照ページです。

***2: パソコンとリンクしていないときは機能は働きません。**

基本的な操作

ここでは、DM-1NET本体で行う操作について説明します。
本機がパソコンとリンクしているときは、「Mulia」を使ってMDの再生、録音、編集、タイトル入力ができます。DM-1NET本体では、これらの操作をすることはできません。「Mulia」の使いかたは、「Mulia」のオンラインヘルプを参照してください。
パソコンの電源がオフのとき、またはパソコンと接続していないときは（パソコンとリンクしていないとき）、本機単独でMDを聴くことができます。操作は、DM-1NET本体で行います（21ページ）。

電源の入れかた、切りかた

本機とパソコンがUSBケーブルで接続されているときは、パソコンの電源と連動して本機の電源を入れたり、切ったりすることができます。

- 本機背面の“PC 連動/非連動”切り換えスイッチが“連動”（工場出荷初期設定）のときは、本機の電源はパソコンの電源と連動し自動的に電源が入ったり、切れたりします。
- “PC 連動/非連動”切り換えスイッチが“非連動”のときは、本機の電源はパソコンの電源に連動しません。⏻（電源）キーを押して電源を入れたり、切ったりします。「Mulia」を使用するときには、必ず電源を入れてください。
- 本機単独でMDを聴くときは、⏻（電源）キーを押して電源を入れたり、切ったりします。

POINT

- “PC 連動/非連動”切り換えスイッチが、“連動”のときでも⏻（電源）キーを押すと電源を入れたり、切ったりすることができます。
- 異常が起きた場合をのぞき、「Mulia」を使用しているときには電源を切らないでください。
- この機器は、電源を切った状態でも微弱な通電を行っています。完全に電源を切るには、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

MDの入れかた、取り出しかた

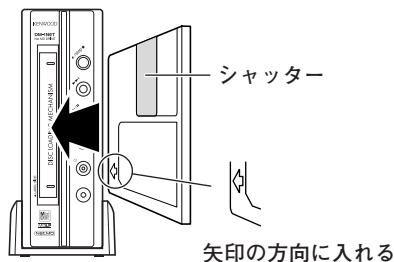
MDを入れる

MDの方向をよく確認して、本機の挿入口へ確実に差し込んでください。

電源が入っていないときは、MDの出し入れはできません。電源が入っていないときに無理にMDを入れないでください。

MDを取り出す

MDを停止し、⏏/stop■キーを押します。

「Mulia」を使用してMDを再生しているときは、再生中でも⏏/stop■キーを1回押せばMDを取り出すことができます。

インジケーターの表示と本機の状態

表示	本機の状態
消灯	電源が切れている状態
緑色の点灯	電源が入っている状態
オレンジ色の点灯	MDの情報を読み出し、書き込み中 データのチェックイン中*1
オレンジ色の点滅	MDの再生中、再生一時停止中*2 データのチェックアウト中*1
緑色、オレンジ色の交互の点灯	パソコンと通信中
赤色の点滅	電気系統の故障です。点検、修理を販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

***1**: チェックイン、チェックアウト:用語の説明 28ページ

***2**: 再生一時停止中は、再生中より早く点滅します。

パソコンを使わずにMDを再生する(本機単独でMDを聴く)

パソコンの電源がオフのときやパソコンと接続していないときでも、ヘッドホンやアンプ内蔵のスピーカーと接続して本機単独でMDを聴くことができます。

(1) ⏻(電源)キーを押して、電源を入れる。

(2) MDを入れる。

(3) ►/❚❚(再生/一時停止)キーを押す。

キーの操作

目的	操作
停止する	⏏/stop■ キーを押す。
一時停止する	►/❚❚キーを押す。もう一度押すと再生を始めます。
曲を飛び越す	次の曲を選ぶときは、►►❙キーを押す。 前の曲を選ぶときは、❙◄◄キーを押す。再生中は曲の最初に戻ります。

POINT

- MDを聴くときは、ヘッドホンやアンプ内蔵のスピーカーを接続します(13ページ)。
- あらかじめMDを入れておくと、電源が切れている状態でも►/❚❚キーを押すだけで、再生が始まります(ワンタッチオペレーション)。

Muliaでの著作権保護による制限

付属アプリケーション「Mulia」は、音楽コンテンツをパソコンに取り込んで管理するための著作権保護技術「OpenMG」を採用しています。
「OpenMG」は、著作権保護されたデータをパソコンで取り扱うために、SDMIの取り決めに従って高度な暗号化技術を用いています。
お使いいただくときに、以下のような制限がありますのでご了承ください。

- 付属アプリケーション「Mulia」を使ってパソコンのハードディスクに入れられた音楽は、他のパソコンにコピーしても再生することはできません。
- パソコンから外部機器またはメディアにチェックアウトした音楽データは、そのデータを他のパソコン等にコピーしても再生できません。
- 外部機器またはメディアにチェックアウトした音楽データは、転送元であるパソコン以外にチェックインすることはできません。
- 付属アプリケーション「Mulia」は、SDMIの取り決めにより、コピー禁止信号が埋め込まれている音楽データを取り扱うことはできません。
- 著作権者やサービス事業者の意志により、音楽データに、利用方法に関する条件が付加される場合があります。この場合、その条件に沿った操作のみが可能になります。
- 音楽CD等で利用方法に関する条件が付加されていないとき、SDMIの基本ルールに沿った操作のみが可能です。
- 付属アプリケーション「Mulia」は、SDMIの取り決めに基づいて作られています。将来この規定が改訂される場合、改訂内容によっては、一部の機能が使えなくなる可能性があります。

（SDMI、チェックイン/チェックアウト:用語の説明 28ページ）

Muliaのアンインストール（削除）

「Mulia」が不要になった場合は、プログラムを削除します。
「Mulia」を使用しているときは、「Mulia」を終了してからアンインストールしてください。
ここでは、Windows®98 SEで説明しています。

(1) ［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］－［アプリケーションの追加と削除］を開く

(2) ［インストールと削除］の一覧で「Mulia」を選択し、［追加と削除(R)］ボタンをクリックする

アンインストーラが起動します。

(3) 以降、画面に表示される指示に従って、アンインストールを実行する

POINT

- Windows 2000 Professional/Windows XP Home Edition/Windows XP Professionalをお使いの場合は、管理者権限（Administrator）のユーザー名でログオンして実行してください。
- 「Mulia」をアンインストールしても、「Mulia」データの保存先として指定したフォルダには、「Mulia」で編集したデータが残ります。

知っておきましょう

結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴（露）が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋などでは、特に結露にご注意ください。

移動時の注意点

本機を輸送するときや、移動するときは、ディスクを取り出し、電源を切ってから行ってください。

お手入れのしかた

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

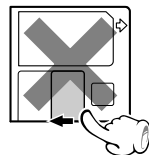
接点復活剤について

接点復活剤は故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

MDの取り扱いかた

MDのディスクはカートリッジに入っているため、ゴミや指紋を気にしないで、手軽に扱うことができます。ただし、カートリッジの汚れやそりなどは、誤動作の原因になります。いつまでも美しい音を楽しむため、次のことにご注意ください。

ディスクに直接触れない

シャッターを手で開けて、ディスクに直接触れないでください。無理に開けるとこわれます。

置き場所について

極端に温度の高いところ（直射日光の当たるようなところ）や、湿度の高いところには置かないでください。

ほこり対策について

本機の中では、MDのシャッターは常に開いています。従ってMDにほこりが入るのを防ぐため、録音、再生が終わりましたら、速やかにMDを本機から取り出してください。

お手入れのしかた

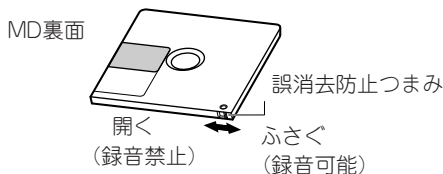
定期的に、カートリッジについたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

ディスクアクセサリーについて

レンズクリーナーは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

次ページに続く➔

誤消去防止つまみ

録音した内容を誤って消さないためには、ＭＤの誤消去防止つまみ（WRITE PROTECT）を開いた状態にしておきます。再び録音する場合は、つまみを元の状態に戻します。

カートリッジラベルについて

ラベルははがれないように端のほうまでしっかりと貼り付けてください。またラベルエリアよりはみだしてラベルを貼らないでください。

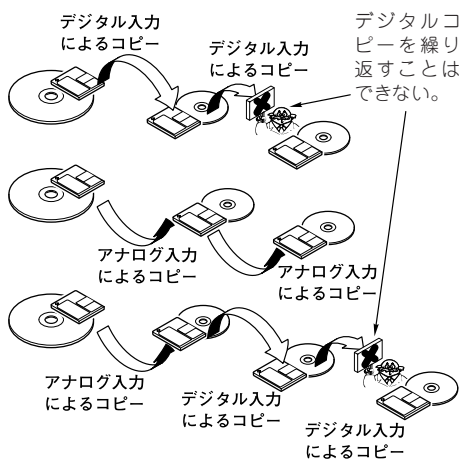
MD-Clipデータについて

MD-Clipデータ（静止画等）を書き込んだディスクは、本機で録音・編集を行わないでください。Clipのデータ内容が失われることがあります。

MD DATAディスクについて

本機は、MD DATAディスクのご使用はできません。

デジタル録音とSCMSについて

SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム)とは、著作権保護のため、各種のデジタルオーディオ機器の間でデジタル信号をデジタル信号のまま録音できるのは、一世代だけと規定したものです。

あなたが録音、録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。なお、デジタル録音機器（この商品）の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
なお、私的録音補償金に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

社団法人私的録音補償金管理協会
東京都新宿区西新宿3丁目20番2号
東京オペラシティータワー11F
電話（03）5353-0336 （代表）
FAX.（03）5353-0337

故障かな?と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

マイコンを初期状態に戻すには

電源が入っているときに、接続ケーブルを抜き差ししたり、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作することがあります。このようなときは、マイコンを初期状態に戻してみてください。

ACアダプターをコンセントから抜き、再びACアダプターを差し込みます。マイコンが初期状態になります。

症状		対策
電源が入らない。	→	AC アダプターが正しく接続されているか確認する。(12ページ)。
MDが再生できない。	→	録音済みのMDを入れる。
MDを入れたとき、オレンジ色のインジケーターが点灯している時間が長い。	→	新品の録音用MD(全く録音されていなもの)を入れた場合、通常よりも長い間オレンジ色のインジケーターが点灯します。
ヘッドホンから音がでない。	→ →	音量を上げる(13ページ)。 ヘッドホンプラグが正しく差し込まれているか確認する(13ページ)。

グループ機能に対応した他の機器で録音したMDを、本機で使用すると正しく動作しないことがあります。

「Mulia」使用時における症状

症状		対策
「Mulia」をインストールできない。	→	使用しているパソコンの環境を確認する(14ページ)。
「Mulia」のインストール中、セットアップステータス画面の次の画面に進まない。	→	タスクバーに[CDDB Active X Control]が表示されているときは、26ページ「Muliaのインストール中に、タスクバーに[CDDB Active X Control]が表示されたときは」に記載されている操作が必要です。 タスクバーの[CDDB Active X Control]表示
「Mulia」上で本機が外部機器として認識されない。	→	本機がパソコンに認識されているか確認する(27ページ)。
CDを再生することやCDをパソコンに録音することができない。	→	MP3、WMA形式の音声圧縮フォーマットディスクなどの音楽CD(CD-DA)以外の ディスクは、Muliaでは再生や録音することはできません。

次ページに続く➔

症状		対策
ライブラリーの音楽ファイルが再生できない。	→	再生期間や回数に制限のある音楽ファイルは、制限を越えて再生はできません。 音楽ファイルによっては、著作権者の意志により、再生方法に制限が付加されたものがあります。
MDにチェックアウトができない。	→ → →	誤消去防止つまみを元に戻す(24ページ)。 音楽ファイルのチェックアウトは、制限を越える回数はできません。 音楽ファイルによっては、著作権者の意志により、記録方法に制限が付加されたものがあります、このような音楽ファイルもチェックアウトできない場合があります。 WMAファイルはチェックアウトできません。
パソコンにチェックインができない。	→ → →	誤消去防止つまみを元に戻す(24ページ)。 チェックアウトした音楽ファイル以外は、パソコンにチェックインできません。 チェックアウトした音楽ファイルは、チェックアウト元のパソコンにしかチェックインできません。
Muliaを使用中に不具合が発生した。	→	Muliaを終了し、再びMuliaを起動する。

その他「Mulia」に関しては、14ページの「MuliaとNet MD」、22ページの「Muliaでの著作権保護による制限」および「Mulia」のオンラインヘルプをご覧ください。

Muliaのインストール中に、タスクバーに[CDDB Active X Control]が表示されたときは

インストール中のタスクバーに[CDDB Active X Control]が表示され、セットアップステータス画面の次の画面に進まないときは、以下の操作をしてください。

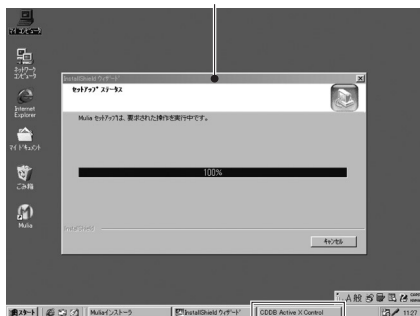
(1) タスクバーの[CDDB Active X Control]をクリックして、[CDDB Active X Control]画面を表示させる

(2) 同じ画面にある[はい(Y)]ボタンをクリックする

「Mulia」のインストール画面に戻ります。

(3) 画面に表示される指示にしたがってインストールを続行する

[セットアップステータス]画面

タスクバーの[CDDB Active X Control]表示

[CDDB Active X Control]画面

[はい(Y)]ボタンをクリックする

DM-1NETがパソコンに認識されているか確認するには

「Mulia」をインストールしたのに、本機が検出されないまたは「Mulia」上で外部機器としてNet MDが認識されない、操作ができないときは、次の方法でDM-1NETが認識されているかパソコン上で確認してください。ここでは、Windows®98 SEで説明しています。

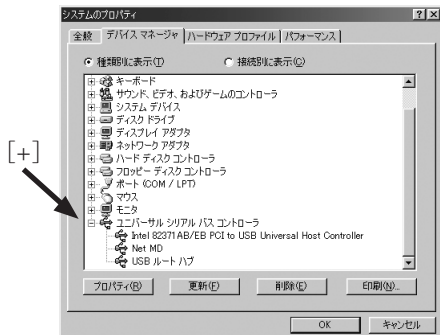
(1) 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して、Windowsを起動する
本機の電源が入っていないときは、電源を入れます。

(2) [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]を開く

(3) [ユニバーサル シリアルバス コントローラ]の[+]をクリックして、[Net MD]があることを確認する
[Net MD]があるときは、本機はパソコンに正常に認識されています。

例：Windows®98 SEの表示

POINT

- パソコンによっては、BIOS設定にて、USBを有効にする必要があります。詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- 「Net MD」は、本機の電源が入ってないときは、「デバイスマネージャ」に表示されないのでご注意ください。

[ユニバーサル シリアルバス コントローラ]の項目に、[Net MD]がないときは、本機はパソコンに認識されていません。次のことを確認してみてください。

■ USBケーブルが正しく接続されているかを確認する

■ パソコンのBIOS設定の次の項目を確認する

- USB機能が「使用する」に設定されている。
- USB IRQが「AUTO」または使用可能なIRQ番号に設定されている。
上記の設定が正しく行われていないと、本機が正しく認識されず、動作しないことがあります。パソコン本体、マザーボードによっては上記のBIOSの設定項目がないものもあります。設定項目の有無や設定方法については、パソコン本体またはマザーボードの取扱説明書をご覧ください。

用語の説明

■ OpenMG

音楽配信サービスや音楽コンテンツをパソコンに取り込んで管理するための著作権保護技術。パソコンにインストールしたOpenMG対応ソフトウェアで、音楽コンテンツをハードディスクに暗号化して記録し、そのパソコン上での音楽の再生を楽しむことができます。また、インターネットなどへの不正な配信を防止することができます。

■ MagicGate

OpenMGを搭載したパソコンと「マジックゲート」対応機器との相互認証により、データ通信の暗号化を行い、著作権を保護する技術。デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぎます。

■ チェックイン／チェックアウト

パソコン上でOpenMG対応ソフトウェアで管理している音楽データを、Net MDなどの外部機器・メディアに転送することを「チェックアウト」と言い、チェックアウトした音楽データを元のパソコンへ戻すことを「チェックイン」と言います。（チェックアウトしたデータを他のパソコンにチェックインすることはできません。）

1度チェックアウトしたデータをチェックインによりパソコンに戻した後、再びチェックアウトすることも可能です。

特別に利用方法に関する条件が付加された音楽データを除き、SDMIの基本ルールでは音楽データは1回のコピーで4部まで作成可能なため、1部はパソコンの内部に保存され、残りの3部は外部機器、メディアへチェックアウトできます。

■ SDMI（Secure Digital Music Initiativeの略）

全世界に共通して使用できる著作権保護技術の統一方式を開発するために、レコード業界・コンピュータ業界・民生用エレクトロニクス業界など約130社以上の企業・団体が集まり、構成されたフォーラム。音楽ファイルの違法な使用を阻止し、合法な音楽配信サービスを促進するための枠組み作りを行っています。

■ Supreme2

ケンウッドが開発したデータ音質向上技術。

MP3をはじめとする圧縮形式の音楽データフォーマットは、データ容量を小さくできる反面、再生時に音質が劣化します。これは、圧縮の際に高音域を中心としたデータが間引かれることが原因であり、その高音域帯を補完して再生する技術がSupremeです。Supremeをさらに進化させ、さらに原音に近い再生ができるようにしたのがSupreme2です。

高音域を補間することにより、音楽ソースによっては高音域だけが強調されてしまったり、中音域とのつながりのバランスが悪くなってしまう場合もありました。そこでSupreme2では「聴覚パラメーター」という人間の聴覚特性を考慮に入れたデータ補間システムを導入。この補間システムによって、中高音のバランスがとれた補間が可能になり、より原音に近づいた音質を実現しています。

また、音域を補間する際のデータ解析をより細密に行うようにしました。

■ MDLP

MDLP対応のMD機器では、MDのパッケージに表示されている録音時間の2倍（LP2モード）や4倍（LP4モード）の長時間録音やLP2/LP4モード*で録音した曲を再生することができます。DM-1NETはMDLP対応機器です。

* MDLPに対応していないMD機器では、LP2/LP4モードで録音した曲は再生できません。「Mulia」でMDにチェックアウトした曲を、MDLPに対応していない他の機器でも再生する場合、Net MDへのチェックアウト時の録音モードでSPステレオを選択してからチェックアウトしてください。
「Mulia」では、録音モードLP2/LP4でMDにチェックアウトすると、LP2とLP4のどちらのモードでチェックアウトするかは、「Mulia」のライブラリに音楽データを取り込むときのビットレートにより自動的に決定されます。ビットレートが66kbpsの場合LP4に、105kbpsまたは132kbpsの場合LP2になります。

商標について

■ MuliaおよびSupremeは、株式会社ケンウッドの商標です。

■ OpenMG、MagicGate、Net MDおよびSonic Stageはソニー株式会社の商標です。

（Sonic Stageはソニー株式会社製パーソナルコンピュータ「バイオ」にプリインストールされているソフトウェアです。）

■ MicrosoftおよびWindows, Windows NT, Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

■ MMXおよびPentiumはIntel Corporationの商標または登録商標です。

Gracenote is CDDB, Inc. d/b/a "Gracenote".CD and music-related data from Gracenote CDDB®,Music Recognition Service℠ © 2000, 2001, 2002 Gracenote. Gracenote CDDB Client Software © 2000, 2001,2002 Gracenote. U.S. Patents Numbers #5,987,525; #6,061,680; #6,154,773, and other patents issued or pending.
CDDB is a registered trademark of Gracenote.The Gracenote logo and logotype,the Gracenote CDDB logo and logotype,and the "Powered by Gracenote CDDB" logo are trademarks of Gracenote. Music Recognition Service and MRS are service marks of Gracenote.
Music recognition technology and related data are provided by Gracenote and the Gracenote CDDB® Music Recognition Service℠. Gracenote is the industry standard in music recognition technology and related content delivery. For more information visit www.gracenote.com.

Gracenoteは、CDDB, Inc.であり、Gracenoteとして営業しています。（d/b/a "Gracenote"）
Gracenote CDDB® Music Recognition Service℠ から取得するCDおよび音楽関連データ©2000、2001、2002 Gracenote。Gracenote CDDBクライアントソフトウェア©2000、2001、2002。米国特許番号#5,987,525、#6,061,680、#6,154,773。その他の特許も取得済または申請中。
CDDBはGracenoteの登録商標です。Gracenoteロゴおよびロゴタイプ、Gracenote CDDBロゴおよびロゴタイプ、ならびに"Powered by Gracenote CDDB"ロゴは、Gracenoteの商標です。音楽認識サービスとMRSはGracenoteのサービスマークです。
音楽認識技術および関連データは、GracenoteおよびThe Gracenote CDDB® Music Recognition Service℠ により提供されています。Gracenoteは、音楽認識技術および関連コンテンツ配信分野での業界標準です。より詳しい情報は、Webサイト"www.gracenote.com."をご覧ください。

その他のシステム名、製品名は、一般的に各開発メーカーの商標または登録商標です。なお、本文中では ™、®マークは明記していません。

保証とアフターサービス

保証書　（別途添付）
製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（ケンウッドサービス窓口のお問い合わせ先は、31 ページをご覧ください。）

補修用性能部品の保有期間
当社は、この機器の補修用性能部品を、製造打ち切り後、8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は
「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（ケンウッドサービス窓口のお問い合わせ先は、31 ページをご覧ください。）
この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口が修理をさせていただきます。（ケンウッドサービス窓口のお問い合わせ先は、31 ページをご覧ください。）修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名 ………………………………
- 製造番号（Serial No.） ………………………………
- お買い上げ年月日 ………………………………
- 故障の箇所（できるだけ具体的に） ………………………………
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください） ………………………………
- お名前、電話番号、訪問ご希望日 ………………………………

保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み
（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）
- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便・宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　）　　　-

サポートとアフターサービスの窓口

各サポートとアフターサービスに関しては、以下の窓口にお問い合わせください。
各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。

■ 商品および「Mulia」に関するお問い合わせ、取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター東京をご利用ください。

カスタマーサポートセンター東京
電話(03)3477-5335　FAX(03)3477-5334　〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-17-9
営業時間
月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝祭日および当社休日を除く）午前9時から午後6時まで

■ 修理の依頼および修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または下記のケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

ケンウッドサービス窓口
- 札幌サービスセンター
  電話 (011) 743-7740　〒 007-0834　札幌市東区北34条東14丁目1-23
- 神奈川中央サービスセンター
  電話 (046) 256-9681　〒 228-0012　座間市広野台2-8-21
- 大阪サービスセンター
  電話 (06) 6394-8075　〒 532-0034　大阪市淀川区野中北2-1-22
- 福岡サービスセンター
  電話 (092) 551-9755　〒 815-0035　福岡市南区向野2-8-18

ケンウッドサービス窓口の営業時間
月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝祭日および当社休日を除く）午前10時から午後6時まで

■「Mulia」サポートおよび製品情報に関するホームページアドレス

http://www.kenwood.com/j/download/mulia/index.html

■「OpenMG Jukebox」についてのお問い合わせは、OpenMGテクニカルインフォメーションセンターをご利用ください。

OpenMGテクニカルインフォメーションセンター（電話での対応のみ）
電話(045)650-2774
サポート時間
月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝祭日を除く）午前10時から午後5時まで

定格

MD部

読み取り方式 .... 非接触光学式読み取り（半導体レーザー）
記録方式 .... 磁界変調オーバーライト方式
音声圧縮方式 ATRAC/ATRAC3
D/Aコンバーター .... 1 bit
ワウ・フラッター（JEITA） .... 測定限界以下

電源部・その他

付属ACアダプター（W09-1297）
.... DC 6 V（AC 100V, 50/60 Hz）
最大外形寸法
縦置き使用時 .... 幅 56 mm
高さ 130 mm
奥行 200 mm
横置き使用時 .... 幅 125 mm
高さ 42.5 mm
奥行 200 mm
質量（重量） .... 1 kg（正味）

POINT

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター東京をご利用ください。
カスタマーサポートセンター東京
電話（03）3477-5335　FAX（03）3477-5334　〒153-0042　東京都目黒区青葉台3-17-9

アフターサービスについては、お買い上げの販売店またはケンウッドサービス窓口にご相談ください。（ケンウッドサービス窓口のお問い合わせ先は、31 ページをご覧ください。）